

明石市立明石商業高等学校福祉科創設検討会
報告書

2021 年（令和 3 年）11 月

1 設置趣旨

本市では、高齢者や障害者等、誰もが住み慣れた地域で、安心して自分らしく生活できる、福祉のまちの実現に向けた様々な取り組みを実施している。

このような福祉のまちづくりのなかで、今後ますます必要とされる福祉分野の専門的かつ実践的な知識・技術の学習を通じ、地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う専門職業人として必要な資質・能力を育み、将来にわたり自己実現を図ることができる人材の育成を目指し、市立明石商業高等学校に福祉科を創設することにつき、関係者による検討を行うため、検討会を設置する。

2 検討結果

(1) 福祉科創設にあたっての重要事項

① 中学生の入学ニーズについて

市立中学校の生徒の高等学校進学に関する現状としては、「公立」、「市内」を志望する傾向が強く、福祉科を含む専門学科への進学者数は少ない。福祉科については、市外の私立福祉系高等学校に数名が進学している状況である。

市内に福祉系高等学校が無い状況で、少数ながらも福祉科への進学者がおり、「公立」、「市内」を志望する全体の傾向も踏まえると、市内に公立福祉系高等学校が設置されれば、今以上に福祉科に興味を持つ生徒が増え、進路指導に当たる教員の意識も変化すると予想される。

福祉科への入学ニーズが少数であったとしても、福祉を学びたいという生徒の学習意欲に応じていくことは、公立高等学校の役目である。

入学ニーズの増加については、市内小・中学校と明石商業高等学校が、「誰ひとり取り残さない、持続可能なまちづくり」という考えのもと、共同して子どもを育てるという共通認識を持ち、福祉教育を充実させることが重要である。また、明石商業高等学校福祉科の魅力や、同科に進むことで描ける福祉分野への就職はもとより、幅広い分野への進路（進学・就職）といった将来像について、小・中学生や保護者、教員に積極的な情報提供（体験授業、動画配信、高等学校生との対話など）を行うことで、福祉分野全般はもとより、職業としての福祉への理解と関心を持ってもらうことができれば、入学ニーズの増加につながると考えられる。

② 教員の確保

福祉の教員免許状所持者は全国的にも少ないが、福祉の教職課程がある大学と連携して免許所持者の情報を収集することは、教員確保に向けた有効な方法である。

また、明石商業高等学校の現職教員が通信教育で福祉免許状取得を目指すこと、福祉施設から講師派遣を受けること、看護系大学等と連携して、看護師等の有資格者の情報を収集することは、教員の確保に繋がる。

③ 定員数

福祉科では、実技指導や、国家試験対策等、きめ細やかな教育を行う必要があるため、1学年1クラスとし、生徒数については、法律で標準とされている1クラス40人を下回る少人数学級とすることが望ましい。少人数学級でない場合は、クラスを少人数に分け授業を実施すること等の対応が考えられる。

また、総定員数については、少子化が進む現状で福祉科創設による増加は困難であると考えられるため、長期的な視点で既存学科のクラス数削減を検討する必要がある。現在の入試の出願状況において、例年、国際会計科に比べ商業科が高倍率であること、また国際会計科の特色である国際理解に関する学習については、市内の他の県立高等学校でも専門学科等が設置されていることから、中学校長会としては、クラス数の削減を行う場合、国際会計科が対象となれば、今の生徒の進路希望に合うものになると考える。

④ 施設整備

福祉科創設にあたり、整備が必要となる実習棟の場所は、明石商業高等学校の敷地内で、他の学校活動に支障が無い所が望ましい。

規模については、1クラスの定員数が40人未満になった場合でも、社会人向け国家試験対策講座の開催等を想定し、40人に対応できる規模が望ましい。

⑤ その他（高等学校入学後の学校生活、高等学校卒業後の進路について）

高等学校進学にあたっては、中学生自身がオープンハイスクールや、学校説明会に参加して、自分の希望に合う学校かどうかを確認して進学先を決めることで、高等学校入学後に「学校生活が自分の希望と違う」といったミスマッチを減らすことに繋がる。ミスマッチが生じた際には、高等学校側のフォローが望まれる。

福祉施設においては、新人職員の心が折れないよう、施設側も責任感を持って人材育成に取り組んでおり、高等学校卒業後の進路として福祉施設への就職を希望する場合には、複数の施設を見学し就職先を決めることが重要である。

(2) その他、福祉科の教育活動における特色づくりなど

- ・修学旅行でヨーロッパなどの福祉先進国に、学校等からの費用助成により少ない自己負担で行くことができれば魅力の一つとなる。
- ・高等学校生による高齢者との触れ合いや、みんな食堂[※]でのボランティア活動、中学校での福祉の出前講座、また中学生による実習棟での介護体験等、商業科の生徒も巻き込んだプログラムも含めて、様々な人と一緒に何か出来るような企画を考えていくことで、地域と連携しながら、明石の福祉教育の拠点となるような取り組みを行う。
- ・全国高校生介護福祉研究発表会など、日頃の学習の成果を発表できる機会に積極的に参加する。

※みんな食堂・・・年齢や障害の有無に関わらず、誰もが利用でき、食を通じて交流を図る地域の拠点

(3) 総括

検討会全体の意見として、明石市の福祉教育をさらに充実させ、明石商業高等学校福祉科の創設を目指すという方向性について、委員全員が賛同するものである。

SDGs 未来 安心都市・明石へ

いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで



やさしいまちに向けた教育

乳幼児期

- ・身近な高齢者や障害者とのふれあい 等

小学校

- ・福祉団体と連携した体験学習
- ・地域福祉の調べ学習
- ・やさしい心を育む教育 等

中学校

- ・トライやる・ウィーク等での福祉施設現場体験
- ・やさしい心を育む教育 等

高等学校

明石商業高等学校 福祉科

～生徒に応じた より良い福祉教育を～

- ◆介護福祉士の資格取得 (進学・就職へ活路)
- ◆市内小・中学校との交流
- ◆高齢者・障害者・子どもとの交流などのボランティア活動
- ◆社会人講習希望者の受け入れ

★福祉のまちのリーダーとなる人材を育成

- ・明石市の小・中学校で学んだ生徒が中心に！
- ・大学等へ進学する生徒も含め各分野で福祉が意識できる人材に

- ・全ての年代を通じて、福祉に関する保護者理解の促進

次世代を担う子どもたちに福祉の心が浸透



- ・高齢者や障害者への理解が深い市民の増加 (地域福祉活動の増加)
- ・福祉人材の増加
- ・明石商業高等学校福祉科への入学希望者の増加



3 委員名簿

区 分	所 属・役 職 等	名 前
学識経験者	関西福祉大学 名誉教授	佐伯 文昭
福祉サービス事業者	明石市保健福祉施設協会 理事	小松 達也
市立中学校関係者	中学校長会 代表（大蔵中）	平田 高之
	中学校進路指導担当教諭（望海中）	勝野 邦彦
市立明石商業高等学校関係者	明石商業高等学校長	橋本 浩二
	明石商業高等学校 PTA 会長	今井 孝治

4 開催状況

(1) 第1回会議

2021年（令和3年）8月25日（水）

明石市役所議会棟2階 大会議室 出席委員 5名

(2) 第2回会議

2021年（令和3年）10月25日（月）

兵庫県水産会館4階 第5会議室 出席委員 6名

(3) 第3回会議

2021年（令和3年）11月17日（水）

兵庫県水産会館4階 第5会議室 出席委員 5名

事務局：明石市教育委員会事務局福祉科準備担当